

平成 27 年度（2015 年度）

# 第 55 回大会

男子優勝：尚志学園

女子優勝：札幌日大

## 【全道大会寸評】

第 55 回となる北海道テニス選手権大会は、6 月 9 日から 12 日の 4 日間の予定で、旭川市花咲スポーツ公園で行われました。一昨年に同じテニスコートで開催された際には、暑さのために体調を崩す選手がおりましたが、今年は公式練習日から大会 2 日目までは小雨や曇りの中での大会となり、選手にとっては非常にプレーしやすい中での大会となりました。最終日は気温が高くなりましたが、選手は力を振り絞ってのパフォーマンスを出し切っていたように感じました。

今大会を通して、当番校の滝川高校の教職員や生徒のみなさんをはじめ、多くの方々のご尽力のおかげで無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は個々の選手に力のある尚志学園高校が念願の初優勝を飾り、女子団体戦は昨年へ続き 5 年連続で札幌日本大学高校が優勝しました。今年は男女ともにどの高校も戦力が均衡し、例年以上に接戦が繰り広げられました。両校とも大阪で行われる全国大会での活躍を期待します。

男子ダブルスは第 3 シードの石川・山下組（札幌藻岩）が初優勝に輝き札幌藻岩としては 3 年ぶりの優勝となりました。女子ダブルスは第 2 シードの山口・東組（札幌日大）が実力を発揮し優勝し、山口は昨年へ続き連覇を果たすとともに札幌日大としては 5 年連続の優勝となりました。

男子シングルスは第 7 シードの加藤翼（札幌日大）が準々決勝以降の接戦をものにして初優勝に輝きました。昨年の全国大会では、団体戦ベスト 8 の原動力になった選手であるので、今年も活躍が期待されます。女子シングルスは第 3 シードの山口ゆり（札幌日大）が接戦の末優勝を遂げました。この一年の山口の成長は著しく、終わってみると山口は団体・ダブルス・シングルの三冠に輝く偉業を成し遂げました。

今大会は男女ともに札幌勢の活躍が目立った大会となりましたが、男子ダブルスでは函館支部から全国大会へ駒を進める選手が出ており、年々道内各支部の選手の力の向上も感じられた大会となりました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待したいと思います。

## 【全国大会】

2015近畿総体テニス競技は、8月1日から8日、大阪市のマリパーク北村で開催されました。連日、朝の試合開始時刻から35℃近くの高温で、大会期間中の最高気温は39℃にも及びました。このような厳しい状況の中、北海道の選手は随所で気力あふれるプレーを展開しましたが、団体戦、個人戦とも上位進出を果たすことはできませんでした。

男子団体戦2回戦では、尚志学園高校が、前年度準優勝の強豪校東海大菅生高校（東京都）と対戦しました。尚志学園はエースの小林とNO.2の高島（陸）をダブルスに起用しました。この試合は、序盤から優位に進めましたが、終盤のリードした場面で、相手の積極的なプレーにやや受け身となり、タイブレークに持ち込まれた末、8（5）－9での敗退となりました。同時に行われていたシングルスNO.2の高島（嶺）が9－8（7）と勝利しており、このダブルスの敗戦が非常に残念でした。

女子団体戦1回戦では、札幌日大高校が、大商大堺高校（大阪府）と対戦、NO.1シングルのエース山口に期待がかけられていましたが、相手の巧みな試合運びに本来の実力を発揮することができずに敗れ、NO.2シングルの東が6－8と健闘したものの、0勝3敗での敗退となりました。

個人戦では、男子シングルスで高野（函館ラ・サール）が1回戦で山形日大に8－3、女子シングルス1回戦で山口（札幌日大）が宮崎商業に8－6、女子ダブルス1回戦で渡部・井上組（札幌清田）が西宮甲英（兵庫県）に8－4で勝利をおさめました。ただ、男子シングルス加藤（札幌日大）5－8敦賀気比（石川県）、小林（尚志学園）6－8名古屋（愛知県）、高島（陸）（尚志学園）6－8宮崎日大、男子ダブルス高野・高岡組（函館ラ・サール）6－8浦和学院（埼玉県）、石川・山下組（札幌藻岩）7－9平城（奈良県）と中盤までは試合を優位に、または互角に進めながらも、終盤の大事な場面でポイントを取ることができずに惜敗するケースが多く見られました。

今年度出場した選手の中には、1、2年生の者もあり、これらの経験を生かした、試合の中盤から終盤の戦い方を意識した取り組みが期待されます。

## 優勝のよろこび

北海道尚志学園高等学校 主将 高島 陸

僕たち北海道尚志学園高等学校テニス部は、今年のインターハイ北海道予選の団体戦で初優勝することが出来ました。団体戦での優勝は以前からの目標であり、支部大会後に全道大会に向けて練習しているうちに、このチームで勝てる、全国でも戦いたいという気持ちが強まってきました。全道大会では帯同する人数が限られているので、選手やボールボーイがコートに入ると、コートの外から応援できるのは一人だけでした。だからこそ、コートの中からプレーでチーム全体を盛り上げるように一人一人が心掛けました。そのため、チームが一つになって戦うことがで

きました。準決勝、決勝は体力的にも厳しい戦いで、もの凄いプレッシャーもありましたが、その中でも選手全員が思いきり戦うことができました。それは選手を支え、応援してくれる仲間がいたからだと思います。この大会を終えて、尚志テニス部はチーム全員で戦うことのできるチームに成長したと思います。そしてこのチームで優勝できたことを心の底から嬉しく思います。これまで支えてくれた先生方をはじめ、全ての人たちへの感謝の気持ちを忘れずに全国大会でも頑張りたいです。

## 優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 東 優花

このチームで全道優勝を勝ち取り、インターハイに出場できることを本当に嬉しく思う。札幌日大は部員全員が同じ目標に向かって同じ強い意識を持って練習することをスローガンにやってきた。チームの一人一人が常に全体のことを考えて行動し、支え合いながら今までやってきているため、どんな状況でもチームでまとまって行動することができる。また、札幌日大テニス部の一員である自覚を持ち、テニスプレイヤーとしてのオンコートの振る舞いはもちろんのこと、テニスコート以外の生活態度などにも意識を向けてきた。そのため、遠征中、学校生活、私生活のどれをとってもルールやマナーを守った行動や礼儀ある振る舞いなどに部員の誰もが自信が持てる。また、辛い練習やトレーニングもみんなで行うことによって真剣に取り組みながら、それを楽しんで乗り越えられるのが良いところである。そしてそんな辛い練習を乗り越えてきたからこそ、チームの団結力は他のどのチームにも負けない自信がある。このチームでインターハイでプレー出来ることに感謝して、今まで練習してきた成果を十分に発揮し、チームの力をパワーにかえて最高のプレーをしたい。また、いつも私たちを支えてくれている両親や周りの全ての方々感謝の気持ちを忘れずに、いつも最高のサポートをして下さっている大好きな我妻先生に恩返しができるように札幌日大のチーム全員で勝利を勝ち取るため、最善を尽くしたいと思う。

全国高校総体 [第 105 回全国高等学校テニス選手権大会] 大阪府大阪市  
(～風になれ 今青春が走り出す～ 2015 君が創る 近畿総体)

8月1日～8日 マリンテニスパーク・北村

男子 個人戦シングルス 優勝 : 望月 勇希 (大阪:清風)

女子 個人戦シングルス 優勝 : 小堀 桃子 (東京:大成)